

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470600248
法人名	社会福祉法人 白石陽光園
事業所名	グループホーム ながさか
所在地 (電話番号)	宮城県白石市福岡長袋字永坂1番地 (電話) 0224-22-4331
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19 年 11 月 19 日

【情報提供票より】19年10月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 1 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8人
職員数	10人	常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	新築/○改築
建物構造	木造	造り
	2階建て	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000~33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月10日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 76歳	最低 69歳	最高 91歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	内方医院・仙南サナトリウム・公立刈田総合病院・亘理歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

昔の隆盛がしのばれる蔵や庭、蚕を飼育した建物に囲まれたホームは旧家を改築し、1階部分が高齢者、2階部分が障がい者と、共生型のグループホームとしてまもなく4年目を迎える。「年をとっても」「障がいがあっても」住み慣れた地域で住み続けるという理念を実践に移していることは、詳細なアセスメントや1ヶ月ごとに見直す介護計画にも表れている。入居者それぞれが役割を持ち、介護度が上がってもできる限り思いを汲み取れるよう努力していきたいという反面、忙しさを希望に応えることができないときがあると課題にあげる。入居者が後悔しない生き方ができるよう支えていきたいと「共生は当たり前」、生活を共にすることで自分達も成長してきたことを実感し努力している職員のもと、穏やかな暮らしがある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題の運営理念の啓発については、子供会や自治会の集まりに参加しグループホームの説明や、見学に際してはパンフレットなどを使い理念の啓発に努めている。また、市との関わりは実習生の受け入れ、指導・助言もあり、さらに連携を深めていきたいと意欲的である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員会議において項目毎に検討し管理者がまとめたものである。地域密着型としてあらためて振り返るきっかけとなり、ホームから働きかけていく重要性も感じたという。入居者・家族の満足度はまだ全員とまではいかないと感じている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	モデル事業のとき運営推進会議が行われていたが、事情により躊躇するところがあり、まだ一度も開催されていない。しかし運営推進会議の意義を考える時、委員の方々にその意義を十分説明をし理解していただくことで、市の協力のもと一日も早い開催が望まれる。そして公表も含めサービスの質の確保・向上につなげていただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日常生活の様子を毎月報告し面会時に意見を聴き、苦情・相談窓口の説明もなされているが、家族からの意見、苦情はほとんどない。家族の率直な意見を聴く機会として、運営推進会議の活用も一考かと思われる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の春祭りや作業に職員と共に入居者も参加する。ホームの防災訓練には協力も得られ火災報知器の一つが地域に向けて鳴るようになっている。近所の人がおすそわけをもってきてくれたり、婦人会のボランティアが懐かしい郷土料理を作り訪問してくれることもある。「地域の1軒の家として」という思いのもと地域との交流に積極的に取り組んでいる。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時より「住み慣れた地域で住み続けていきたい思い」それが「地域社会の中で実現できるように応援する」という理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき、地域の人とどう関わっていく支援ができるのかを職員会議、カンファレンスなどで話し合い、入居者ごとの目標を検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し地域の草刈りやごみ拾いなどに参加している。行事の参加のときなどさりげなく接してくれ、地域の婦人ボランティアによる郷土料理、おかずのおすそ分けがくるなど、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議において項目毎に検討し、これまでのケアを振り返るきっかけとなった。地域密着というものをあらためて考え、ホームからの働きかけや改善に向けて取り組んでいく姿勢がみえた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前、県のモデル事業として行われた時のあり方を考えると法人として迷うところがあり、まだ開催されていない。	○	運営推進会議の意義は十分理解している。諸事情があるものの各関係者・本人・家族・外部の人々と意見交換を行い、地域の理解と支援を得る機会であり、サービスの質の確保・向上に繋げていただきたい。そのためには以前モデル事業で行われたことにとらわれず、市の協力も得ながら一日も早い開催が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携が滞りぎみであったが、実習生の受け入れや相談の機会を持つなど、改善されつつある。今後運営推進会議などを通じ、積極的な連携を期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に日頃の様子、お小遣い帳の確認をして貰い、毎月発行する「ながさか通信」にも、個別の報告が記載されている。面会の少ない家族、体調の急変時には電話による報告もなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム以外の苦情相談窓口を重要事項説明書に記載し、説明もなされている。訪問時に要望など言っていたくよう声がけをしているが、不満や苦情はほとんど無い。ささいな出来事などから家族の意見を聴いたりするなど、日頃の様子のきめ細かい報告もお願いしたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の事情による異動が多少あったが、入居者へのダメージを抑えるために、できるだけ異動は避けたいとのことである。異動があった場合は職員間で十分話し合いを行い、入居者をフォローしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1度のカンファレンスや、月2回行う職員会議において勉強会も行う。研修の年間計画はないが、どのような研修を受講したいか希望を聞き、外部研修の回数が職員により差がでないよう配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	みやぎ共生ネットワークに加入している。年6回予定されているネットワークの研修は職員が交替で参加し、他の事業所の職員との交流や情報交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたり家族と共にホームの見学や宿泊をしてもらい、できるだけ本人が納得して入居できるよう支援している。場合によっては入居後も不安なくホームでの生活を始められるように家族も3、4泊してもらう協力もいただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事や干し柿作り、草むしりの仕方などアドバイスをもらい、生活の知恵を教わることも多い。「疲れているみたいだね」と、入居者から気遣っていただくこともあるという。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なにげない会話や家族からの情報に基づき丁寧になされたアセスメントにより、一人ひとりの思いの把握に努めている。それは家族アンケートからもうかがえるが、職員は入居者の3分の1ぐらいはまだ不十分と、厳しい自己評価をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族との日頃の話し合いの中から思いや意見を聴き取る努力をし、アセスメントに基づき担当以外の職員の気づきも反映した介護計画が作成されている。生活歴なども考慮し、好きだったことなどを試してみることもある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月に1度の見直しとなっているが、1ヶ月ごとに見直し評価としてまとめている。入居者の状態の変化のみならず、明らかに計画にそぐわない時には、直ちに見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物の付き添いなど、家族・入居者の要望に応じ柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院介助を行い、嘱託医の月に1度の往診、法人の看護師との連携もとれており、入居者・家族の安心につながっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまで重度化した場合に家族との話し合いは行われてきたが、重度化・終末に対する意志確認書は作成されていない。今後の変化に備え、職員間で話し合いを進めていく方向にある。	○	共生型グループホームの難しさはあると思うが、ホームとしてどこまで看ることができるのか方針を定め、入居者・家族が安心してサービスを利用できるよう、家族の状況、他の入居者への影響も踏まえ話し合いを進めていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては家族と同意書を交わしている。個人記録は鍵のかかる部屋に保管され、利用者に対する職員の態度もゆったりとして、方言も交えながらさりげない言葉がけがなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムに考慮しながらその日にしたいことを把握し、意志表示の少ない方は表情を読み取るなどして、柔軟な対応に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、後片付けなど入居者と共に行っている。居間の大きな掘りごたつで、職員がさりげなく声をかけサポートしながら一緒に食事を楽しんでいる。季節の行事食や誕生日には入居者の好みのものを用意し、楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に午後になっているが、夕食後の希望があれば支援している。大・小二つの浴槽があり、広い浴槽にはその日の気分で、高齢者と障がいを持った方が祖母と孫のような関係で、二人で入浴することもあるという。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴から畑仕事や野菜の下処理、草むしり、食事の準備、後片付けなどそれぞれ役割ができています。今後もできるだけ本人の思いを汲み取れるようにしていきたいと、職員のヒヤリングでも聴かれた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の見守りのもと散歩や外出の支援をしており、車椅子の方も積極的にドライブに出かけたり、二日に一度の食材の買出しなども、気分転換になっている。馴染みの理・美容院への付き添いなども行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不意の外出が分かるように玄関に風鈴をつけ、日中は鍵をかけず自由な生活ができるよう支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの火災報知器の一つが地域に向けて鳴るようになっており、地域の消防団には緊急時に応援をもらう要請をしている。マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行い消火器の使い方の訓練も行っているが、夜間を想定した避難訓練はフローチャート作成のみで、いざというときの対応に不安が残る。	○	夜間の一人勤務の時も慌てず確実な避難誘導ができるよう、入居者一人ひとりの状態を踏まえ、入居者と共に夜間を想定した定期的な避難訓練を実施していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は法人の栄養士が立てたものであり、摂取カロリーもおおよそ把握している。職員の中にも栄養士がおり、入居者に合わせて臨機応変に献立を変更することもある。水分の摂取には特に気を使い記録すると共に、少ない場合にはゼリーなどで対応することもある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	旧家を改造した室内は大きな掘りごたつのある居間をはじめ、調度品なども、蔵に置いてあった箆箆や帯を利用し、和風の落ち着いた造りになっている。日当たりのよい廊下に置かれた長いすでは、外を眺めながら日向ぼっこをする入居者の姿があり、居間と続きの台所からは料理のいい匂いもしてきて、生活感のある共用空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の意向であり家具を置かない居室もあるが、一人ひとりの馴染みのものや好みのものなどがある、その人らしく過ごせる居室にするための努力をしていただきたい。	○	家族への協力は入居時からお願いしており、ホームとしても工夫するなど努力をしている。みんなでこたつでおしゃべりすることもよいことだが、入居者が自分の居場所と感じられ、一人不安なく落ち着いて過ごせるいっそうの環境作りをお願いしたい。